

研究計画書

<b>ゼミ名</b>	足立ゼミⅡ	<b>チーム名</b>	あだっ cheese
<b>タイトル</b>	女性が育児と労働を両立するには？		
<b>テーマ群</b>	c)公共経済		
<b>メンバー</b>			
<b>研究計画内容</b>	<p>近年、労働市場において、女性の社会進出により男性だけではなく女性の活躍も見られるようになりました。そのような女性の中でも結婚を考えている人、今後子供を作ろうと計画している人、もしくは、子供がいる人等が抱えている最大の悩みがあります。それは、仕事と育児・家事の両立です。仕事によって安定した雇用、収入を確保することは大切ですが、それと同様に子供の成長を見届けることも女性にとっては大事なことです。私たちはそんな女性にとって働きやすく子育てにも力を入れることができるライフプランを考え提案します。</p> <p>この数十年で働く女性は確かに増えました。今では雇用されて働く女性は約 4 割を超えてきています。しかし、働く若い女性の実態を見てみると、結婚を機に退職する女性は減っていますが、第 1 子出産を機に退職する女性は約 5 割に上ります。多くの女性が、「子育て、特に乳幼期から学童期と仕事との両立は難しい」と思っているのが理由です。子供を産む前から「育児と仕事の両立は難しい」と思ってしまうのはなぜでしょうか。その理由はそのようなイメージを世の中が抱いてしまっているからでしょう。その要因の 1 つとして、働く女性が増えている一方で、保育所が足りていないという現状があります。「育児休暇は保育所探しに翻弄した」「空きがなくて保育所が確保できず困っている」という女性の声が多いです。また、保育所の利用時間にも限りがあるため、育児休暇明けの復帰後は時短で働く女性も多く、業務を限られた時間内で行うには大変です。このような問題を抱える子育てママたちのために、私たちは今回の研究で女性の就業状況をあらゆる視点から分析し、保育施設や政策状況から現状を把握します。また、女性の社会進出により貢献できるような解決策を提案します。</p>		